

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 霧丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

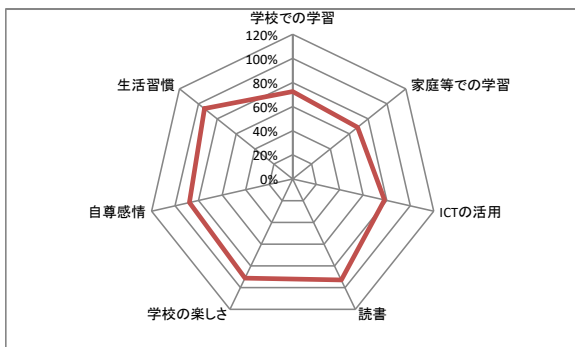
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・話し言葉と書き言葉の違いに気付くなど、知識・技能に関する問題は比較的理解できている。 ・自分の考えをまとめたり、文章のよいところを見つけたりするところに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	1ー 発言の理由として適切なものを選択する。	
	努力が必要な問題	3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることができている。 ・伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	3(1)表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。	
	努力が必要な問題	2(3)示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・昆虫の体のつくりなど知識・技能に関する問題は比較的理解できている。 ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、表現することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	1(3)昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ。	
	努力が必要な問題	3(4)実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することができる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・携帯電話の所持率は約90%で全国平均を10%ほど上回る。30分以内の使用にとどめている児童も23%(全国平均約15%)ほどいるが、1日3時間以上使用している児童も25%(全国平均20%)ほどいる。長時間使用することのデメリットを児童だけでなく、保護者にも呼びかけていく。 ・「自分にはよいところがあると思う。」と肯定的に回答している児童が約60%で全国平均約80%を大きく下回っている。しかし、2学期の校内児童アンケートにおいては75%にまで上昇した。児童会活動や「よいところみつけ」など主体的な活動を継続的に取り組んできた成果が出てきている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・算数科に関しては、学力向上タイム(きりぼうタイム)を週2回行い、基礎学力向上に努めた。 ・授業において、自分の考えをもち、話し合う活動を継続的に行う。また、学習のまとめの際に、自分の言葉でまとめる時間を確保する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習で手本となる取組をしている児童のノートのまとめ方を紹介している。 ・保護者への配布物でスマホ依存になる危険性を掲載して、家庭でも使いすぎに気を付けるように呼び掛けた。
